

12月6日に宮城で県議会提出・要請行動をおこないました。「就学支援金制度創設の地である宮城が他県より遅れていることなどあって良いのか」と詰め寄る父母の発言が、県議会議長に「宮城の私学助成が他県と比べて遅れていることは認識している」と認めさせたことは重要です。署名数も昨年度を大きく上回る1万2000筆を積み上げ、24人の参加者で県議会に迫った要請でした。

宮城私教連 ニュース

仙台市青葉区柏木1-2-45 フォレスト仙台
宮城県私立学校教職員組合連合
TEL 022-271-3007
FAX 022-271-3008
22-13号 2022年12月2日

私学助成の一層の拡充を！！ 12/6に県議会請願を行いました！！

署名集約総数は12,154筆！！

12/6（火）に県議会請願を行い、皆さんからお預かりした署名を提出してきました。近年、署名集約は減少傾向にあり、昨年度はついに1万筆の大台を割ってしまいました。しかし、今年度は公教育たる私学教育の一層の充実、そして公私間格差の是正を目指す世論の高まりによって、昨年度比で約2割増となる12,154筆が集まりました。これも皆さんの奮闘があつての成果です。次年度以降はさらに運動を拡大し、私学教育の無償化を推し進めていきましょう。



「宮城の私学助成が遅れてことは認識している」（県議会議長）

請願には、平日にもかかわらず24名もの方々が県議会に集結し、議長はじめ、11名の議員に宮城の私学助成の現状と課題、そして私学に通う高校生姿、家庭の実情などを訴えかけました。なかでも、尚綱学院の父母の言葉は非常に印象的であり、参加者の心に響くものでした。裏面にその内容（一部抜粋）を掲載しましたのでご覧ください。

私たちからの請願を受けて、最後に挨拶をした菊地宮城県議会議長は「宮城の私学助成が他県と比較して遅れていることは認識している」旨の発言をしました。近年は各自治体によって私学に対する助成制度にばらつきが出ており、結果的に「公私間の格差」だけでなく、「自治体間の格差」が生じています。生まれた都道府県によって受けられる私学助成が異なるという矛盾が生じているのです。菊地議長の発言はこうした状況を踏まえたものであり、宮城の私学助成制度は議長の発言通り、未だ発展途上にあります。

裏面へ

請願主旨

2020年度4月1日施行の「高等学校等就学支援金制度」拡充により年収590万円未満世帯の私立高校に通う生徒の経済的負担は大きく減少しました。宮城では昨年度より590万円以上620万円未満世帯まで県の独自補助がはじまり、高校進学にあたり「私立高校」を選択できる中学生が増えました。しかしその補助制度は東北の中でも低い水準にとどまっております。宮城県の補助対象の世帯は未だ限定的であるといわざるをえません。さらに平均16万円にもものぼる施設設備費等は支援金の対象にならないため保護者負担が多く残ったままになっています。他の都道府県に比べても宮城の補助額が充実しているとは言い難く、新型コロナウイルス感染症や物価高騰の家計に与える影響が大きく、更なる制度拡充が必要とされています。また、県による経常費助成補助は、ここ数年の財政の厳しさを理由に抑制が続いており、宮城県内の私立学校ではきびしい学校経営を余儀なくされています。宮城の将来を担う子どもたちのためにこの事態は一刻も早く改善されなければなりません。

今年も県すすめる会は、東北各県の仲間と11月に県対交渉を行ってきました。私学公益法人課は検討するというものの、恒久的な財政の確保が厳しいことや施設設備費は対象にならない話があり、なかなか前進できていない現状であります。県の財政が厳しいとはいえ、未来ある宮城の子ども達が、経済的な理由で学業に専念できず退学したりすることがあってはなりません。今回も、宮城県議会議員の皆様にお力添えをいただきながら、県議会へ請願を行います。



尚綱の父母が、私学に子を通わせている親の立場から私学助成の課題を議員に説明しました



菊地議長（左）に請願書を提出するすすめる会の永澤会長（右）

（一部抜粋）

・・・私立は学費が高いから公立じゃないと困る、という家庭は依然として多いのが実情です。魅力ある私立高校への進学が親の収入によって制限されてしまう、子どもたちの進路を左右してしまう、このような状況がこの先も続いていいのでしょうか。

先日、私は愛知で行われた私学助成をすすめる会の全国集会に参加し、都道府県によって私学助成のしくみ・金額が全く違うことを知りました。また、就学支援金制度創設のきっかけをつくったのは、宮城の高校生を取り上げた河北新報のコラムだったことを知りました。その高校生は親の経済的な事情で学校を辞めざるを得なかったそうです。学びたいのに学校に通うことが出来なくなってしまう、こんな悲しく切ないことがあっていいのでしょうか。そして、国の政策を動かすきっかけを作った子どもがいる宮城の制度が他県よりも遅れていることなど、あっていいのでしょうか。

どうかこれからの子どもたちが経済的理由で夢を諦めることなく、希望を持って学び、進路を選択できるよう、私学への助成制度を一層拡充していただくよう、お願いいたします。

院内集会以降の署名数については12月末の集約数を調査します。最後まで署名集めに奮闘しましょう。